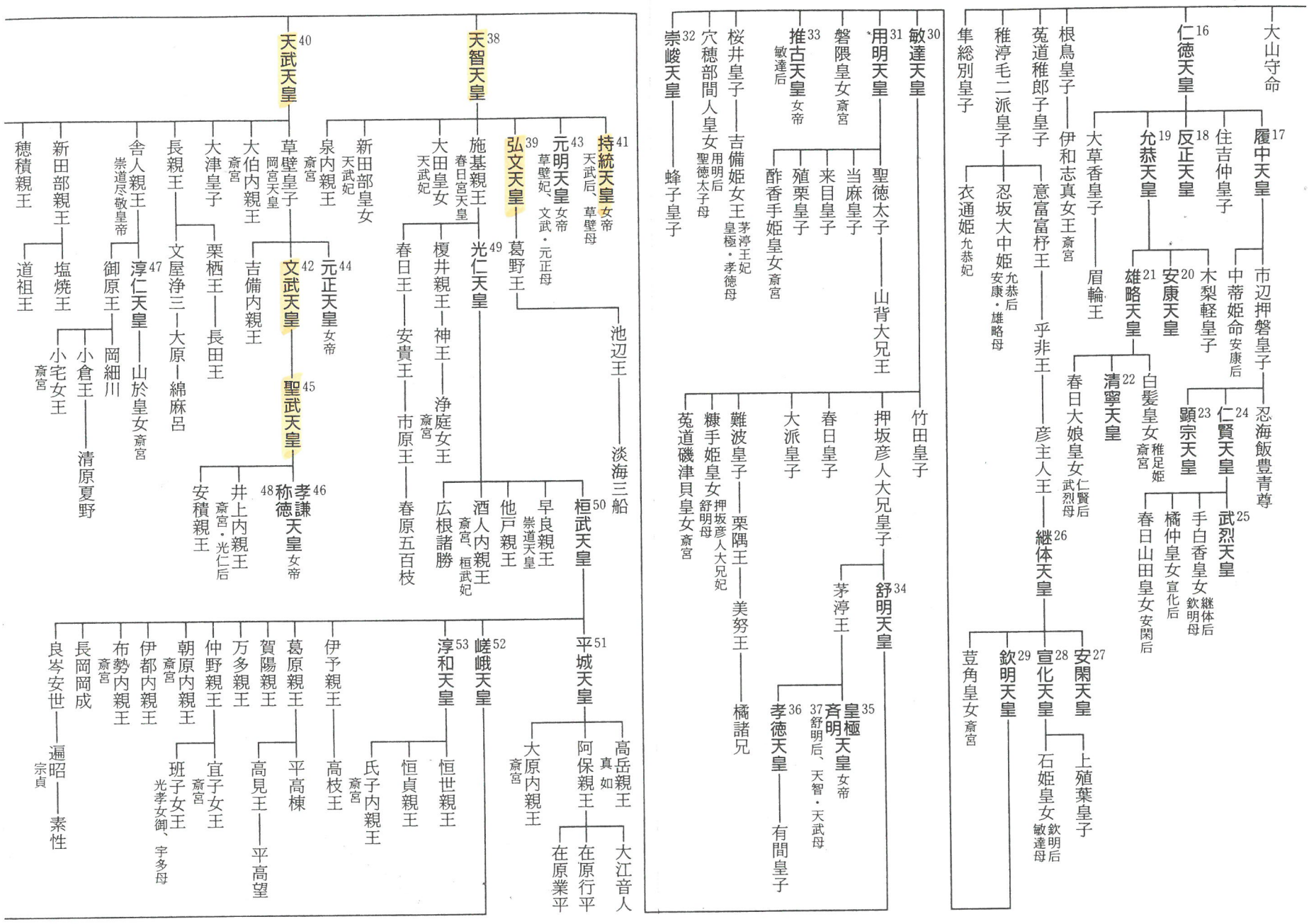


天武天皇と薬師寺

令和五年九月法話　薬師寺 管主　加藤朝胤

第四十代天武天皇（てんむ てんのう）

①御名・異称　大海人（おおあま）天淳中原瀛真人（あまのぬなはらおきのまひとみこと）尊

②父　第三十四代 舒明天皇

③母　宝皇女（第三十七代 斉明天皇）

④皇后　鵜野讃良（うのさら）皇女（第四十一代 持統天皇）

⑤生没年　生年不詳～朱鳥元年（六八六）九月九日

⑥年齢　不詳

⑦立太子　天智天皇七年（六六八）

⑧在位　天武天皇二年（六七三）二月二十七日～朱鳥元年九月九日

⑨在位年数　十四年

⑩年号　朱鳥

⑪皇居　飛鳥浄御原（あすかきよみはら）宮

⑫陵名　檜隈大内陵（ひのくまおおうちのみささぎ）

⑬古墳名　野口ノ墓古墳・野口王墓古墳

⑭陵の形　円丘（八角）

⑮所在地　奈良県高市郡明日香村大字野口

薬師寺と天武・持統天皇

天武天皇が皇后の病気平癒を祈願して薬師寺創建を発願された。しかし、天武天皇は寺の完成を見ないまま崩御なされた。その後、皇后が即位され女帝・持統天皇となって、ご本尊を開眼された。薬師寺の伽藍の整備は、文武天皇の御代まで引継いで進められた。

創建当初薬師寺は飛鳥藤原京(奈良県橿原市城殿町)の地に造営され、八世紀初めに平城遷都に伴い現在地西ノ京に移転された。今も飛鳥藤原京跡には本薬師寺《もとやくしじ》として遺構が残されている。

例年天武天皇のご命日の十月九日(旧九月九日)午前九時に明日香檜隈大内陵《あすかひのくまおおうちのみささぎ》にて薬師寺一山挙げて法要を厳修する。

天武・持統天皇陵について

●天武天皇(てんむてんのう、第四十代天皇)

壬申の乱(六七二年)で天智天皇の息子である大友皇子(弘文天皇)を破り勝利して皇位に就いた。兄である天智天皇の遺志をつぎ、中央集権国家の形成を推し進めた。飛鳥浄御原令を制定し律令制の基礎を築いた。朱鳥《あけみどり》元年(六八六年)九月九日、五六歳で崩御された。

●持統天皇(じとうてんのう、第四十一代天皇)

天武天皇の皇后であり天智天皇の娘、鵜野讃良《うののさらら》。天武天皇とともに中央集権国家の確立に尽力した。天武天皇亡き後即位し藤原京の造営を行っている。七〇二年に亡くなった持統天皇が、大化薄葬令により天皇としては初めて火葬され、七〇三年に天武天皇埋葬のために築かれた陵墓に合葬された。

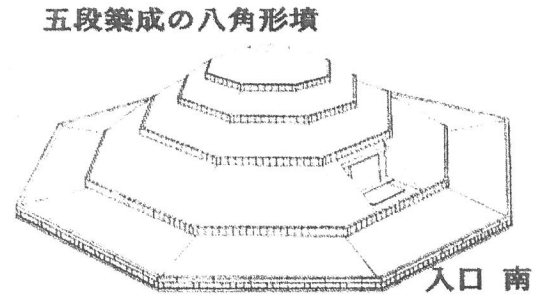
●天武天皇 持統天皇 檜隈大内陵
(別名は野口王墓古墳《のぐちおうぼこふん》
奈良県高市郡明日香村大字野口)

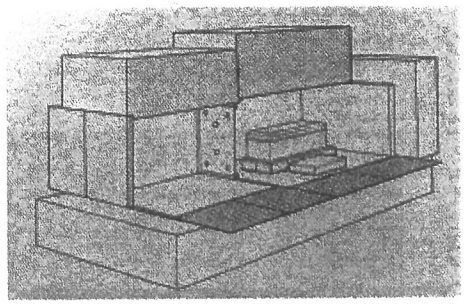
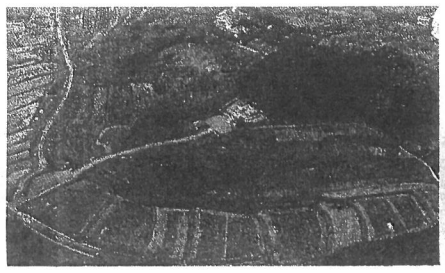
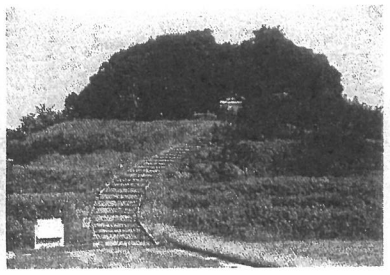
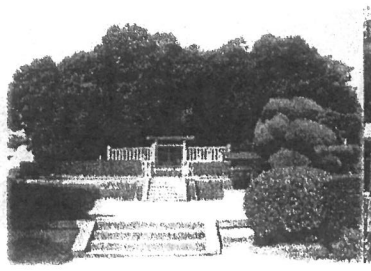
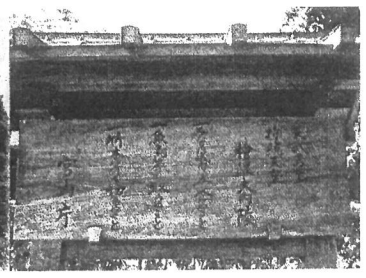
古墳の形状は八角墳で、墳丘は現在東西約五八m、南北径四五m、高さ約九mの円墳状になっている。墳形は八角形で五段築成、周囲に石段を巡らし、切石積みの石室は二室から構成され、奥が長さ四・五m、幅三m、高さ三m。前室と玄室の間は両開き金銅製の仕切り扉が設けられている。玄室は前面朱塗り。

玄室内は天武天皇を葬る布張り朱塗りの夾紵棺《きょうちょかん》と、持統天皇の火葬骨を納める金銅製骨蔵器が納められていると、一二三五(文暦二)年の盗掘の際、墳丘・前室・墓室内について検分した記録である『阿不幾乃山陵記』《あふきのさんりょうき》に記されている。これにより『日本書紀』『続日本紀』などの記述が一致したため古代の天皇陵としては珍しく治定に間違いなく天武・持統合葬陵であることが確定した。

現在は、宮内庁 畝傍陵墓監区事務所が管理する。

五段築成の八角形墳





天武天皇・持統天皇